

楷

第七十号

岡山大学
附属図書館報
OKAYAMA UNIVERSITY
LIBRARY BULLETIN

KAI

No.70

2020
FEBRUARY



<写真>

あんじやへる
花色数種アリ
或ハ阿蘭陀石竹トモ云

「備前国備中国之内領内産物絵図帳」（岡山大学附属図書館所蔵池田家文庫より）

—目 次—

- 附属図書館でのセクシュアルマイノリティ啓発展示の紹介
（全学教育・学生支援機構 准教授 松井 めぐみ）…………… p.2
- 図書館における博物館実習展示の試み（社会文化科学研究科 光本 順）…………… p.5
- マスカット…………… p.9
池田家文庫絵図展報告、学生・館長懇談会報告 ほか
- 会議・研修・編集委員から…………… p.16

附属図書館でのセクシュアルマイノリティ 啓発展示の紹介

松井 めぐみ

1. はじめに

学生相談室は、「さまざまなセクシュアルマイノリティについて、知る。考える。」という企画を2012年度から毎年開催し、2019年度で8回目を迎えました。最初の年は当事者による講演会だけでしたが、その次の年からは講演会に合わせて、「学生相談室だより セクシュアルマイノリティ特集号」の発行や、講演会会場での関連書籍展示を行うようになりました。その後、講演会に参加できなかった人や、より多くの学生・教職員に伝えたい、見てもらいたいという思いから、岡山大学附属図書館にご協力いただき、2015年度から中央図書館1階ロビーで、1か月ほど啓発パネル掲示と関連書籍紹介も実施するようになり、2019年度で5度目の展示となりました。

2. 展示の内容

啓発パネルは毎年10~20枚ほど制作し、内容は少しずつ変化させています。最初にセクシュアリティについての基礎知識（生物学的性、性自認、性的指向、性表現、LGBTQなど）の説明パネルがあり、その後日本と世界の状況、当事者が大学で困っていることなどのパネルに加え、年によって当事者学生のメッセージとその指導教員のメッセージを掲載した年もあれば、他大学で起きた事件を踏まえてカミングアウト、アウティング、もしカミングアウトされたら、という内容を加えた時もありました。パネル内容の変化を振り返ると、初期の頃は「LGBT」という言葉が急激に使われ始めた時期だったため、「LGBT」という語を多用していたものの、次第に「LGBT」以外のセクシュアルマイノリティの人達の存在にも目を向け始め、さらに昨年度からは、「多様性」へと考え方を広げたメッセージを込めるなど、制作者である学生相談室スタッフの考え方の変化も反映されています。また今年度はテレビでドラマ化された作品の紹介も行うなど、学生に関心を持ってもらうための工夫をこらしています。

パネル展示と一緒にしている、セクシュアルマイノリティの関連書籍の展示は、学生相談室と図書館が所蔵している本を使用しています。書籍の大部分には、その本に興味を持ってもらえるよう、学生相談室のボランティアであるピアサポーター学生達が作ったポップを付けています。ピアサポーター達は初めてのポップ作りで試行錯誤し、文字だけでなく絵を描いたり色を付けたり、手に取ってもらえる見出しを考えたりして、それぞれ個性的なポップを作成してくれています。展示している書籍の内容は、大学生向けのものから、専門書、新書、絵本、漫画など、かなり幅広く取り揃えています。それによって、ほとんど何も知らない初心者から、論文の参考文献を探している人まで、多くの人の興味のレベルに応えられるものにしつつ、将来教師になる学生や、現在子どもを持つ教職員などにも手に取ってもらい、いつか子ど

も達のためにその本が役に立ってくれたらと願ってもあります。また毎年、その年の講演者が書いた本や、講演者の属性（トランスジェンダー、Xジェンダー、ゲイ、当事者の家族、支援者など）に合わせた本も選んでおり、講演会に連動した書籍展示にしています。さらにほぼ同時期に、岡山大学生協のブックストアでも、セクシュアルマイノリティ関連書籍の紹介コーナーを作ってくださいっており、そちらにもピアサポーターが作った紹介ポップのミニ版を付けさせていただいています。このように、講演会、書籍紹介、パネル展示、学生相談室だより（全学生と教職員に配信）が組み合わさって、「さまざまなセクシュアルマイノリティについて、知る。考える。」という一つの企画が出来上がっています。



図書館での啓発パネル掲示と関連書籍紹介

3. 啓発活動の必要性

セクシュアルマイノリティの啓発活動を、そもそも行う必要があるのか？そして8年間も継続して行う必要があるのか？という疑問を持たれる方もいるかもしれません。学生相談室がこの企画を行う最初のきっかけは、当事者学生であったピアサポーターの学生が、相談室のスタッフに意を決してカミングアウトし、「大学のみんなにセクシュアルマイノリティについてきちんと知ってもらいたい」と希望したことに応える形で始まりました。企画を考える際に当事者の学生から話を聞いたり、本を読んだりしたところ、カウンセラーとして多少は知っているつもりではいたものの、実は全然分かっていなかった事がたくさんあることに気が付きました。そしてまだ頭の柔らかい学生達と、頭の固い方々にきちんと知ってもらいたい、分かってもらいたい、と考えて啓発活動実施に踏み切りました。これまでの講演会の出席者の感想を読むと、「今までほとんど何も知らなかったことに気が付いた」「自分も知らずに無神経な言動で誰かを傷つけてしまっていたかもしれない」「もし友達からカミングアウトされたら受け止めたい」「XジェンダーやSOGIについて初めて知って勉強になった」「実際に当事者の人が語る言葉を聞いて、自分が今まで表面的にしか理解していなかったと分かった」等の感想が多く、啓発活動には効果を感じています。しかしながら、講演会に参加したり展示を見たり、学生相談室だよりを読んでくれる学生は全体の中の一部であり、また学生は毎年入れ替わって新しく入学してくることや、セクシュアルマイノリティに関して社会の動きが近年はかなりのスピードで変化していることから、毎年アップデートしながらの継続した啓発活動は今後必要だと考えております。

4. おわりに

中央図書館という、所属に関係なく多くの学生や教職員が訪れる場所で、1か月近くに渡って毎年セクシュアルマイノリティの企画展示をやらせていただいていることは、本当にありがたい事だと思っております。企画展の開催中、何度か様子を見に行き、展示した本が貸し出されていたり、その場で読みふけている人を見ると、とても嬉しくなり、心の中でそっと「ありがとう」と言っています。この企画を始めるようになって、学生相談室にはセクシュアルマイノリティに関連する相談が増え、以前、当事者学生はごく少数と思っていたのは、単に見えていなかった、打ち明けられていなかった、あるいは相談していい場所と思われていなかったのかもしれないと思いました。啓発活動と相談によって、学生相談室が少しでも何かの助けになれば嬉しいですが、当事者の中には特に悩んでいない人や、そっとしておいて欲しいと思っている人もいますので、そのような人達への配慮も忘れてはならないと思っています。

セクシュアリティには様々な観点があり、グラデーションでもあるので、その様相が一人一人異なると考えると、実は全ての人がマイノリティと言えるかもしれません。また昨年度の講演会では、「マイノリティは存在しない。差別する人がいるだけだ。」というメッセージも語られました。あるいは、何らかの生きづらさを感じている人は、皆何らかのマイノリティという考え方もあるかもしれません。いつかマイノリティを特段意識しないでいられる社会や状況になることは一つの理想ではありますが、今は啓発活動に触れた人が「知る。考える。」機会を提供することで、将来に向けて「種を蒔く」ことができればと思っております。

(まつい・めぐみ 全学教育・学生支援機構 准教授)

図書館における博物館実習展示の試み

光本 順

1. 図書館での博物館実習展示の背景

本稿では、人文系博物館実習の一環にて岡山大学附属中央図書館で開催してきた実習展示について紹介したい。博物館実習とは、博物館専門職員や文化財専門職員となる上で多くの場合必要な、学芸員資格を取得するための必修科目 19 単位のうちの 3 単位を占める。博物館概論や博物館資料論など、座学で学んだ後の実践編である。学芸員資格取得のための単位数の増加を受け、本学では 2013 年度から新課程の学芸員養成教育が開始した。文学部では、実習の受講要件となる単位を 2 年次に修得し、3 年次以降に実習を受講することとなる。したがって、新課程の人文系博物館実習は 2014 年度からスタートした。筆者は学芸員課程を切り盛りする役目を担っており、実習も担当している。

2014 年度に中央図書館 1 階ラウンジで開催した第 2 回学芸員課程企画展が、当課程と図書館との出会いである。図書館改修後の 2015 年度からは、現在の 2019 年度にいたるまで、中央図書館 2 階サルトフロスタ内のクスノキエリアに設置の 2 台の展示ケースをお借りして、実習展示を行っている。従来の本学における人文系分野の博物館実習では、展示実践が含まれていなかった。新課程に移行するにあたり、実習内容をより強化するねらいで、展示実践をカリキュラムに盛り込んだ。その際、展示場所の確保が必要となる。残念ながら岡山大学には、大学の規模と豊かな研究内容に比して、大学博物館という組織が存在しない。

2. 実習展示ができるまで

人文系博物館実習は合計 3 単位であるが、年度前半期に行う学内実習 1（資料の取り扱いと学外への見学実習）、館園実習（学外の博物館・美術館による受け入れのもと、現地で 5 日間以上の実務を経験する実習）があり、後半期に学内実習 2 の中で展示実践を行っている。展示実践は、いわば実習の総まとめでもある。展示期間は例年 12 月中旬である。

2019 年度を例として、実習展示の成り立つ過程を紹介したい。2019 年 12 月 5 日（木）～12 月 17 日（火）を展示期間とし、実習生 18 名（文学部 3・4 年次生）が、以下の流れで実習を行った（いずれも 3・4 限）。

- 10月 2日（水） 展示実践に関する課題を教員から実習生各自に提示。統一テーマを実習生が設定。
- 10月 23日（水） 各自の展示企画書をもちより、四班に分かれて班ごとの展示を立案。
- 10月 30日（水） 班ごとに解説パネル等の文章作成・検討。
- 11月 6日（水） 各班の展示案に関するプレゼンテーション。4つの展示案から実際に展示する4案を学生が選択。選ばれた2班以外の班は、チラシ制作、大判プリント、序文作成、アンケート作成、『学芸員課程Newsletter』作成を分担。
- 11月 13日（水） 展示内容検討。チラシ案、アンケート案提示・決定。展示準備作業。

- 11月 20日 (水) 教室で模擬展示とディスカッション。
12月 4日 (水) 展示設営。
12月 18日 (水) 展示撤収。
1月 29日 (水) 『学芸員課 Newsletter』 への実習展示に関する記事のプレゼンテーション、アンケート結果の共有、展示実践のふりかえり。

2ヶ月ほどで展示を計画し、実践するという短い準備期間の中での取り組みである。最初に実習生が直面する問題は、一体何を展示するかである。自分たちで何か集めて展示する（他機関からの借用は行わない）というルールを事前に設定している。初回の授業では、2つの平置き展示ケースに共通する統一テーマを実習生が討論し、決定することになっている。それにより、収集の方向性が定まるわけである。実現可能なものを実習生は選択するため、「岡山」や「身近なもの」にテーマが集約されやすい傾向もある。2019年度は、いくつかの案の中で「思い出」にかかわる事柄を統一テーマとした。その際の印象的な議論を紹介したい。個人の思い出そのものであれば、その展示内容を来場者が共有しにくいのではないかと、図書館来場者の年齢層は学生が多いものの多様であり、年齢層が異なれば懐かしいものも変わるのではないかとといった、「思い出」にどうアプローチすべきかという問題である。結果、「思い出」に関するモノを収集するという行為自体のおもしろさに焦点を当てることとなった。筆者は担当教員として実習を仕切る立場であるが、よい展示となりそうだと感じた瞬間であった。

2つの展示ケースで実際に展示することとなったのは、企画1「とっておきたい とっておきのチケット」、企画2「撮っておきたい岡山」である（図1）。企画1では、大切に保管された博物館からコンサートに至るまで、デザインも発行方法も異なるチケットに着目した。企画2では、岡山の思い出の風景写真を絵葉書の形で表現した。統一展示名称については、第7回岡山大学文学部学芸員課程企画展「とっておきたい わたしの〇〇」とした。「わたしの〇〇」としたのは、来場者が主体的に想像しうる余地を残したいという実習生の意図による。また、できるだけ来場者に主体的に参加いただく仕掛けをつくるために、今回の場合、付箋を利用して思い出に関するスクラップブックをつくらう、というコーナーも中央に設置した。



図1 完成した展示 (2019年度)

3. 実習展示の意義

こうしたささやかな展示実践において、筆者が心掛けているのは、来場者を想像しながら、資料選定からレイアウト、解説文のデザイン・文字の大きさ・字体に至るまで、いかに工夫できるかという点である。それは、展示会場の設備の充実度合いや規模の大小に限らない、展示制作の基本と考えるからである。またそうした、いわば切りのない作業に対し、粘り強く熱意をもって取り組んだ展示は、来場者に必ずや伝わるという点も実習で強調している。博物館展示論という、筆者が3・4学期に担当する学芸員資格の授業で、受講生には本展示を見学してその工夫を読み解くというミニレポートを課している。受講生は様々な工夫を指摘しながら、展示制作の実際に思いを巡らす。

あらゆる展示には、予算、資料、設備等、何らかの制約がつきものである。図書館での展示の場合、来場者はあくまでも図書館に来たついでであったり偶然であったりする 경우가ほとんどであろう。そうすると、せっかくの展示に対する反応に関し、アンケートを設置してもなかなか記入していただけない。そこでここ2年は、アンケートの体裁を工夫することで、少しでも気を引く努力を実習生は考案した。2019年度の場合、アンケート用紙を絵葉書風にし、かつ複数種類を用意し、それを郵便ポストにみたてた回収ボックスに投函いただく形をとった(図1写真の左手前)。その成果だろうか、以前は数枚しかなかった回収数が、ここ2年間は10枚前後と、僅かであるが増えている。また、会場があくまで図書館の一角であるため、博物館展示に通常必要な照明器具も存在しない。しかし、ある意味型にはまらない、自由な発想による展示にチャレンジしやすい環境でもある。2016年度に「倉敷」をテーマにした班は、展示ケース下部の黒い金属部分を白いマスキングテープと白用紙で飾り付け、白壁の蔵にみたてた(図2)。



図2 第4回企画展「おかやまさんぽ」(2016年度)

一方、発生しうる事象を想像する重要性についても議論してきた。例えば、「紙」をテーマとした2018年度の展示では、来場者参加企画として、好きな本を付箋に書いて貼っていただくというコーナーを設けた。実習生は楽観的なようにもみえたが、筆者としてはどのような種類・内容のものが「好きな」本として挙げられるのか、そのリスクと対処する上での理屈づくりについて学生に意見した。結局、付箋の色ごとにテーマをしぼることとし、結果としては事なきを得た。なお結果論としては、実習生の感覚の方が筆者の心配よりも当たる場合が多い印象もある。

図書館という場でこうした実習展示を行う意義は、図書館のラーニングコモンズとしての機能強化と軌を一にする。折しも、展示場所を探していた当課程と、変わりゆく図書館がタイミングよく出会ったともいえる。この幸運な出会いを、これからも大切にできればと思う。なお、展示の具体的内容については、文学部学芸員課程 Web Site (<http://www.okayama-u.ac.jp/user/pmw/>*) にアップロードした『学芸員課程 Newsletter』に、実習生執筆の報告を収載している。興味のある方はご一読いただければ幸いである。末筆ながら、いつも会場準備等に際して快くご協力くださる図書館スタッフの皆様に、厚く御礼申し上げる次第である。

(みつもと・じゅん 社会文化科学研究科 准教授)

*文学部学芸員課程 Web Site は右バーコードからアクセス。



マスカット

池田家文庫絵図展報告

2019年10月19日(土)～11月4日(月・祝)に岡山シティミュージアムを会場に池田家文庫絵図展「武家と天皇」を開催しました。

開会初日には開会式と企画・監修した倉地特命教授によるオープニングトークを実施、例年通りオープニングトークは大勢の方々にご参加いただきました。

また、10月26日(土)に記念講演会「『大嘗祭』の誕生—古代の皇位継承儀礼の生成と変異」を開催、専修大学名誉教授の荒木敏夫氏にご講演いただき、こちらも85名の参加を得ました。全体の入場者数としては1,789名となりました。来年度以降の池田家文庫絵図展もどうぞよろしくお願いいたします。



学生・館長懇談会報告

中央図書館では、2020年1月22日(水)に、社会文化科学研究科、文学部、自然科学研究科、理学部、農学部、教育学部所属の学生計11名の参加を得て、学生・館長懇談会を開催しました。

懇談会は、よりよいサービスの提供を目指して、学生から図書館利用についての意見や要望を直接お聞きするために実施するものです。

この度の懇談会では、学生から岡山県立図書館搬送便、学生希望図書、書庫利用、館内での盗難発生など、さまざまな質問や要望をいただきました。附属図書館では、学生からの貴重な意見を基に、サービス改善に取り組んでいきます。

中央図書館 貸出用ノートパソコン更新

中央図書館では、Windows7のサポート終了に伴い、貸出用ノートパソコンを新規に5台購入しました。

従来機は動作が重いなど、ご不便をかけておりましたが、新ノートパソコンはSSDを搭載し、ストレスなく動作します。また、大型ディスプレイやテンキー付きキーボードなど、使用感の面でも大きく改善しました。

皆様どうぞお試しください。ご利用は貸出返却カウンターでお申し込みください。

知好楽セミナー報告

「知好楽セミナー」とは、グローバル化時代を生き抜くための「知」と「心」を育む交流をコンセプトとした中央図書館の独自企画です。各界から多彩な講師をお招きし、ご好評をいただいています。

- ・第23回「市民とともに育つ図書館をめざして～瀬戸内市民図書館の実践～」



日時：2019年10月28日（月） 14:30～16:00

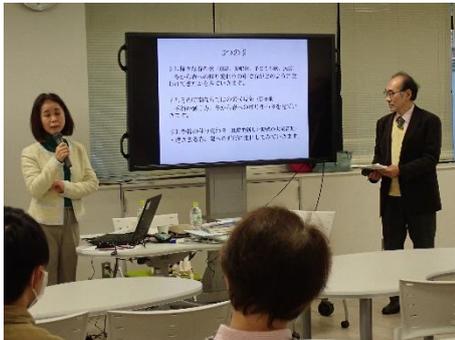
場所：中央図書館 本館3階 セミナー室

講師：瀬戸内市民図書館・館長 村上岳

参加者：29名

市民参加の協働事業「としょかん未来ミーティング」を踏まえて2016年に開館した瀬戸内市民図書館の歩みや、地域とつながる様々な取り組みについてお話いただきました。

- ・第24回「気象と音楽 一季節サイクルの中でみるドイツや日本の『春』と『歌』」



日時：2019年11月29日（金） 14:30～16:00

場所：中央図書館 本館1階 ラーニングコモンズ

講師：岡山大学教育学研究科・教授 加藤内藏進

岐阜聖徳学園大学教育学部・教授 加藤晴子

参加者：30名

ドイツや日本の「春」と「歌」について、加藤内藏進教授が気象学・気候学の観点から、加藤晴子教授が音楽の観点からお話いただきました。

・第25回「出会いと別れ アインシュタイン氏の第3の次元」



日時：2020年1月23日（木） 16:30～18:00

場所：中央図書館 本館1階 ラーニングコモンズ

講師：九州大学理学部・准教授 秋山良

参加者：34名

ブラウン運動やエントロピーなどについて、身近な題材を元にわかりやすくお話いただきました。講演後は参加者から活発に質問が出され、関心の高さがうかがえました。

ブックハンティング実施報告

ブックハンティングは、学生の皆さんが書店に出向き、図書館の蔵書に相応しいと思う本を選ぶイベントです。

中央図書館のブックハンティングは、2019年11月6日（水）の午後に、丸善岡山シンフォニービル店で開催しました。4名の方にご参加いただき、104冊の本を選んでいただきました。

資源植物科学研究所分館のブックハンティングは、2019年10月15日（火）～11月29日（金）に、岡山大学生協ブックストア（津島キャンパス）で開催しました。期間中に3名（学生2名、教員1名）の方にご参加いただき、33冊の本を選んでいただきました。



中央図書館ミニ展示報告

中央図書館本館 1 階ロビー・語学学修スペース・本館2階サルトフロrestaで、当館資料を紹介するミニ展示を実施しました。2019年10月～2020年1月は以下のテーマで展示しました。

10月「Young Adult ELI Readers」

「LLL Award 受賞・ノミネート作品」

「国際周期表年特集」

12月「新潮クレスト・ブックス」

「さまざまなセクシュアルマイノリティについて、知る。考える。8th」

1月「ブックハンティング」



2019年度「池田家文庫子ども向け岡山後楽園発見ワークショップ」(冬) 実施報告

2020年2月16日(日)に附属図書館と教育学部の共催による「池田家文庫子ども向け岡山後楽園発見ワークショップ」を岡山後楽園で開催し、43名(小学生25名、同行者18名)の方にご参加いただきました。

参加者は学生による紙芝居で後楽園の歴史を学んだうえで、附属図書館所蔵の巨大絵図(複製)のうえを歩いたり、グループに分かれて縮小絵図(複製)を手に園内を回ったりして、絵図に描かれた昔の後楽園と今の後楽園の違いを発見しました。最後にグループごとに発表を行い、それぞれの発見を共有しました。



サルトフロresta展示報告

中央図書館本館2階のサルトフロrestaでは各種の展示を行っています。サルトフロresta内イチョウエリアでは学内の研究成果を発表する「知恵の見本市」のポスター展示を実施しています。また、同じくクスノキエリアの展示スペースでは、学内の資源を使った様々な展示を行っています。具体的な実施内容は以下の通りです。

・「国際周期表年特集」

2019年は、メンデレーエフが元素の周期律を発見してから150周年に当たります。岡山大学理学部・異分野基礎科学研究所との共催で、「巡回展『国際周期表年2019特別展』」のパネル展示を行いました。

展示期間：2019年10月1日（火）～11月8日（金）

展示場所：中央図書館 本館2階 サルトフロresta内イチョウエリア



・文学部学芸員課程企画展「とっておきたい わたしの〇〇」

文学部学芸員課程の実習生たちが「とっておきたい わたしの〇〇」という統一テーマのもと、ケースごとに企画テーマを設定しました。企画1では、博物館ほかのチケットに着目した展示を行い、企画2では、岡山の思い出の風景を絵葉書の形で展示しました。

企画展示1 「とっておきたい とっておきのチケット」

企画展示2 「撮っておきたい岡山」

展示期間：2019年12月5日（木）～12月17日（火）

展示場所：中央図書館 本館2階 サルトフロresta内クスノキエリア



オリエンテーション・データベース講習会実施報告

○中央図書館

中央図書館では2019年10月～2020年2月にオリエンテーション等を実施し、延べ223名の方にご参加いただきました。

オリエンテーション、ツアー

実施日	対象	参加人数
10月18日	新入生ツアー	1
10月23日	放送大学学生	12

ガイダンス

実施日	講習会名	参加人数
10月15日、12月12日	図書館・文献検索ガイダンス (教員の依頼により授業・ゼミ等で実施)	35
11月6日、8日、13日、 15日、1月20日、23日、 27日、30日	ライティング・サポート・セミナー	86
2月19日	英語論文投稿セミナー	54

データベース講習会

実施日	データベース名	参加人数
1月17日	eol	20
1月24日	Web of Science + Kopernio + EndNote	15

○鹿田分館

鹿田分館では2019年10月～2020年2月に講習会を開催し、延べ218名の方にご参加いただきました。

ガイダンス

実施日	講習会名	参加人数
2月19日	英語論文投稿セミナー	93

データベース講習会

実施日	講習会名	参加人数
10月25日	文献入手講座(秘書、初心者向け)	5
12月26日	UpToDate 登録、利用案内	120

教員からの寄贈図書リスト

次の方々から著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。

石原 伸一 [大学院教育学研究科 (理科教育)]

日本の国際教育協力：歴史と展望——東京大学出版会，2019.9 (372.1/N)

今津 勝紀 [大学院社会文化科学研究科 (文)]

戸籍が語る古代の家族 (歴史文化ライブラリー 488) ——吉川弘文館，2019.10
(210.3/I)

加藤 内藏進 [大学院教育学研究科 (理科教育)]

気候と音楽：歌から広がる文化理解とESD——協同出版，2019.3 (451.9/K)
——吉川弘文館，2018.6 (Maruzen eBook Library)

会議

◆学外

- | | | | |
|-------------------|---|------------|--|
| 2019.10.4 | 令和元年度第3回岡山県大学図書館協議会
研修委員会（於：岡山大学） | 2019.11.22 | 令和元年度国立大学図書館協会中国四国地
区協会実務者会議（於：徳島大学） |
| 2019.10.23 | 2019年度オープンアクセスリポジトリ推進
協会（JPCOAR）第9回運営委員会
（於：国立情報学研究所） | 2019.12.6 | 令和元年度中国四国地区国立大学図書館所
管部課長会議（於：岡山大学） |
| 2019.11.8 | 令和元年度国立大学図書館協会秋季理事会
（於：広島大学） | 2020.1.27 | 2019年度オープンアクセスリポジトリ推進
協会（JPCOAR）第10回運営委員会
（於：国立情報学研究所） |
| 2019.11.14
～15 | 第55回日本医学図書館協会中国・四国地区
総会（於：鳥取大学） | 2020.2.14 | 国立大学図書館協会中国四国地区協会事業
委員会総会（於：岡山大学） |
| 2019.11.19 | 令和元年度第4回岡山県大学図書館協議会
研修委員会（於：就実大学） | | |

◆学内

- | | | | |
|-----------|--------------------------------------|-----------|--------------------|
| 2019.7.25 | 令和元年度第1回附属図書館運営委員会資
源植物科学研究所分館分科会 | 2019.11.1 | 令和元年度第2回附属図書館運営委員会 |
| 2019.7.29 | 令和元年度第1回附属図書館運営委員会鹿
田分館分科会 | 2020.1.28 | 令和元年度第3回附属図書館運営委員会 |

研修

- ・セミナー”就職支援に役立つデータベース活用 2019”
参加者 水内 勇太（10.1）
- ・第60回中国四国地区大学図書館研究集会
参加者 藤原 智孝（10.17～10.18）
- ・第4回JMLA 学術集会
参加者 遠矢 厚志（12.6）
- ・令和元年度岡山県大学図書館協議会研修会
参加者 大元 利彦, 尾崎 文代, 富岡 達治
（11.27）
- ・令和元年度国立大学図書館協会地区協会助成事業
（中国四国地区）ワークショップ
参加者 大元 利彦, 尾崎 文代, 富岡 達治,
犬飼 恵美子, 大園 隼彦, 石丸 綾華,
市地 七実子, 粕谷 美紀, 水内 勇太,
羽田 まどか, 藤井 瑞恵（2.13）

編集委員から

平成から令和へ、今や令和2年になりました。附属図書館では平成6年に植物研分館の史料館竣工、平成9年に中央図書館西館（竣工から本館のリニューアルまでは「新館」と呼んでいました）が出来、平成26年に中央図書館本館と鹿田分館がリニューアル、と現在の図書館の主要な施設がすべて平成に新築・改修されています。これから何十年か先、令和をふりかえった時に、どういう出来事が岡大図書館の歴史に記録されているのか、今から楽しみです。（T.F.）

岡山大学附属図書館報「楷」 No.70 2020年2月29日
発行人 大元利彦 編集 広報ワーキング
岡山大学附属図書館発行 〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目1-1
ホームページ URL <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>

